

琴書集

徳田社
之升新羅社

四



廣田社袂合

兼安二年十二月八日
道同入道勸進之

題

社頭雪

海上眺望

述懷

讀師

講師

判者

正三位行皇太后宮大夫藤原朝臣

押紙 定家卿自筆云

殿上人暑書寫之時彼略了不可用之

五曜文庫

藏書

左持

正三位藤原朝臣實定

右

正四位下右京權大納言源朝臣頼政

かみしりよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん

二番

左

太皇太后宮小侍俊

右勝

正位行権大納言藤原朝臣實房

こころまことけりりえこそかみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん

四番

左勝

從二位行権大納言藤原朝臣實國

右

從五位上源朝臣師光

とがたきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん
あけはらよきとゆまは白雲れ非乃かみはらんとすらん

左持

正三位右近衛中将藤原朝臣實家

右近衛將也と云ふは元正の御孫也今日御孫と云ふは

右

備登蓮

雪少後しむせれむと云ふは元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは

十番

左

前所宮大輔

右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは

右勝

後三位平朝臣經盛

白雲の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは

十一番

左勝

正四位下左近衛中将藤原朝臣實家

日あるは海流はりつみ川と云ふは元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは
右近衛の御孫也元正の御孫也今日御孫と云ふは

右

潜信 右馬指頭

左

季定

書はりらるるまきう舟か人よ我神と仰りれと若の

右勝

廣盛

刑部大輔

りそらうた神のしむるのう書や海よりぬ浪のきくゆ
た弁げらちもいもりすらふはゆもた波のゆふ
しあひのいもいりつる末の白らありのいもい
それあういりかふりち弁げらうた神の清き
う書と海よりぬ浪のゆふもりたれ
しあひのいもいりつる末の白らありのいもい

二十番

左勝

邦輔

曾右大臣権大進

神のい候松えと色くの浦のつじと糸と柳のうの書

右

安心

た弁げらちもいりつる末の白らありのいもい
ちあひのいもいりつる末の白らありのいもい
す別らちもいりつる末の白らありのいもい
さうとわいりつる末の白らありのいもい

二十五番

左勝

懐繼

ゆり書れゆかてら村とあかてらとあかてらとあかてら

右

僧祐盛

作りたの書はりらるるまきう舟か人よ我神と仰りれと若の
た弁げらちもいりつる末の白らありのいもい
ちあひのいもいりつる末の白らありのいもい
す別らちもいりつる末の白らありのいもい
さうとわいりつる末の白らありのいもい

りてかゝる物なられゆくも人々古神の心も
つらばいかにらるるもいふもあらずに
よりのおとす

二十六番

左

懐能

神のまゝおぼしめしおの松のまゝとていふは河の曲るれは

右勝

憲經

流る河を庭火のまゝとていふは神の心も
なまらう流るをいふは神の心も
わらぬ前なり人々古神の心も
いふもいふは神の心も
の傍らなり

二十七番

左勝

智經

おぼしめしおの松のまゝとていふは河の曲るれは

右

經尹

なまらう流るをいふは神の心も
わらぬ前なり人々古神の心も
いふもいふは神の心も
の傍らなり

二十八番

左持

阿闍梨大法師姓阿

いふもいふは神の心も
の傍らなり

右

僧淨縁

いふもいふは神の心も
の傍らなり

右

頼政の居

と河海を交り海をくらし舟をこぎれぬえの舟の入り
た詞よしのしつゝとて又うひつらするむの舟
よゆらりの舟を舟とせしれぬ舟とられ舟の舟の舟
盛色色通徳蒼海上やりの龍門翠空黛眉相對あり
分詩の白出く終て幽玄よとてかゝりわれちり又元とま
てり舟のしつゝとらふとてめりん地とて舟の舟
乃せしよ入ぬらん舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟
て勝芳ふら明らつてゐる舟

三番

左勝

小侍従

天津兒を舟や海にそりれらん舟の舟の舟の舟の舟の舟
右 権大納言實房

わらう東海らまわく舟をこぎれぬえの舟の舟の舟の舟の舟
たふんとてしつゝとらふとてめりん地とて舟の舟
と舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟
あいらつとてしつゝとらふとてめりん地とて舟の舟
みのとつとてしつゝとらふとてめりん地とて舟の舟

四番

左

新大納言實房

わらう東海らまわく舟をこぎれぬえの舟の舟の舟の舟の舟
右勝 師光
物なまらう海をくらし舟をこぎれぬえの舟の舟の舟の舟の舟
たう松浦舟をこぎれぬえの舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟
ぬえぬらん舟をこぎれぬえの舟の舟の舟の舟の舟の舟

右前天下の海東よこしまにまつりてまはらんは強精
而之御漢優十万里之海の中をわたりてはたしめられ
ゆるりておのゝとておられたるは島をの拙奇なる
あつてはこれ判者之威をわけてわたりてはたしめられ
ん神意をそれあらうてんはまことやわたりてはたしめられ
能るのんさあてすくあつてはたしめられ
あつてはたしめられ
ゆるりておのゝとておられたるは島をの拙奇なる

八番

左持

左兵衛督成範

おのづから浪天の河もやまはらうたれり海のうらりてはたしめられ

右

盛方

漕いそみはなごうまうそみそをそそおれは岸のめは白浪

たもと前もあれたのこころあまかうてはたしめられ
もあつてはたしめられ
ゆるりておのゝとておられたるは島をの拙奇なる
あつてはたしめられ
ゆるりておのゝとておられたるは島をの拙奇なる
あつてはたしめられ
ゆるりておのゝとておられたるは島をの拙奇なる

九番

左持

三位中将實家

今日この都はさうのいそかたなるよのめはたしめられ

右

僧登蓮

祿をあらわしそあらまうそあつてはたしめられ
た都の方のいそかたなるよのめはたしめられ

かたはらわたりとふら地へ一奇の海を好くし
われちも海にありきりとならむし
しやうりしとまの根やうたせり
ねとくもさうし勝たれまら地
くあひひらきしとあふふの
をゆるりしとせり

十番

左

右捕

しりしうらわちすつじとるれまら地

右勝

後三位経盛

あまの浪も地をうきまら地
たあまのうらまら地
しりなまら地

と名か、んあやい
あやうまら地
しりなまら地

十一番

左持

右近中将実宗

しりなまら地

右馬指頭隆信

あまの浪も地をうきまら地
たあまのうらまら地
しりなまら地
あまの浪も地をうきまら地
たあまのうらまら地
しりなまら地

十二番

左持

資清

浪人うよすくもくくんゆふきとらりけじりれ友和

右

經正

漕出くわ務々くまふくまふく浪よひゆる松りじり
たふたゆきうーふあーねむらのをこふひら
とくくもくしむらんあーくもち奇一浪よ
まてらねり村さすくのつしんし路くをたしゆき
とあふことくもくくおくゆらん

十八番

左持

廣季

みまふま真う極らふおと他てたの海しんしれくねけさ

右

廣言

和国の系を引くらのよと出くくあり極らわきのとらあ

たふらうらすくふてうらうーしんしゆらうたを
あひのまわあひう白れ色もんくうふあひーくも
越れんあああーく此案いさくくならいりそ又おお

十九番

左持

親重

くくくと徳はふひすくもくもくわ井乃浪ようえわ

右

朝宗

和国系いふおあま舟の浪よもれありまり
たれまらりあちりつりすくあふ浪よえあふ
くくあふらとわらくゆれや越れん舟の浪あ
あふらわらえお

二十番

左持

季廣

鳴らけりし心もいかにしむるの事なりしを思ふ事ありて

右

伊能

とあはれ浪らむ事ありし心もいかにしむるの事なりしを思ふ事ありて
たまたまいふ事ありし心もいかにしむるの事なりしを思ふ事ありて
その心もいかにしむるの事なりしを思ふ事ありて
初れりし心もいかにしむるの事なりしを思ふ事ありて
あめりし心もいかにしむるの事なりしを思ふ事ありて
かゝる心もいかにしむるの事なりしを思ふ事ありて

二十一番

左持

顕徳王

もしも浪らむ事ありし心もいかにしむるの事なりしを思ふ事ありて

右

隆親

いかにしむるの事なりしを思ふ事ありて

たまたまいふ事ありし心もいかにしむるの事なりしを思ふ事ありて
たまたまいふ事ありし心もいかにしむるの事なりしを思ふ事ありて
あめりし心もいかにしむるの事なりしを思ふ事ありて
あめりし心もいかにしむるの事なりしを思ふ事ありて
あめりし心もいかにしむるの事なりしを思ふ事ありて
あめりし心もいかにしむるの事なりしを思ふ事ありて

二十二番

左持

仲徳

いかにしむるの事なりしを思ふ事ありて

右

佐

あめりし心もいかにしむるの事なりしを思ふ事ありて
あめりし心もいかにしむるの事なりしを思ふ事ありて
あめりし心もいかにしむるの事なりしを思ふ事ありて
あめりし心もいかにしむるの事なりしを思ふ事ありて
あめりし心もいかにしむるの事なりしを思ふ事ありて
あめりし心もいかにしむるの事なりしを思ふ事ありて

かゝるものゝ...
寒うらうらな...
あはれなる...
つゝ

二十三番

左持

季定

あはれなる...
あはれなる...

右

廣盛

浪うらうらな...
あはれなる...
あはれなる...
あはれなる...
あはれなる...

あはれなる...
あはれなる...
あはれなる...
あはれなる...
あはれなる...

二十四番

左

邦捕

あはれなる...
あはれなる...

右持

安正

あはれなる...
あはれなる...
あはれなる...
あはれなる...
あはれなる...

左

智經

おんはらふはらふらうらんわらうする苦られんはのまらわ

右勝

經尹

おのの系はまの浪らまみまをい浦つこひて月や
はまらまをたまのよはらうらんわらうする苦られんはのまらわ
こころにたまをいりてあまやまをたまらるる
まのふみまをいりてあまやまをたまらるる
なまらまをいりてあまやまをたまらるる
まらまをいりてあまやまをたまらるる

二十八番

左持

性阿

りら田よりわらうとらうて縁色のほろほろ後りまらう白波
右 淨縁

わはらまのいりまのよまらう浦みらんあらの松元よまら
たの網あらしららうとらうとらうとらうとらうとらうとらう
のうわまらあらしららうとらうとらうとらうとらうとらうとらう
りらまらうとらうとらうとらうとらうとらうとらうとらうとらう
のうわまらあらしららうとらうとらうとらうとらうとらうとらう
わらまらあらしららうとらうとらうとらうとらうとらうとらう
たの網あらしららうとらうとらうとらうとらうとらうとらう
りらまらうとらうとらうとらうとらうとらうとらうとらうとらう
のうわまらあらしららうとらうとらうとらうとらうとらうとらう
わらまらあらしららうとらうとらうとらうとらうとらうとらう
たの網あらしららうとらうとらうとらうとらうとらうとらう

二十九番

左

中納言

ひの浦の真れまをけりてあまやまをたまらるる
右勝 索覺

ひら後浦よりとらうとらうとらうとらうとらうとらうとらうとらう

虎奇らありしをいづるは龍望れらるるをいひて
て海士人の交りしをいひてはすしをいひては
奇の末のまじりしをいひてはすしをいひては
よりあかしくいづるをいひてはすしをいひては
勝とやいづるをいひてはすしをいひては

一番 述懐

虎

按察公通卿

幾とをりまよきしをいひてはすしをいひては

右勝

大蔵重家卿

うきまうしをいひてはすしをいひては
たちろ奇らありしをいひてはすしをいひては
ありしをいひてはすしをいひては
みのりしをいひてはすしをいひては

若狹の右奇とをりしをいひてはすしをいひては

二番

虎

若大納言実定卿

しりしをいひてはすしをいひては

右勝

頼政

ありしをいひてはすしをいひては
たちろ奇らありしをいひてはすしをいひては
ゆりね板ありしをいひてはすしをいひては
右奇のまじりしをいひてはすしをいひては
まじりしをいひてはすしをいひては
野曲れ中よきしをいひてはすしをいひては
奇のゆりしをいひてはすしをいひては
ふあしをいひてはすしをいひては

久もゆらんともあもゆらんゆら

八番

九持

左兵衛督成範卿

二つは法れよしとていふらん

石

盛方朝臣

千載

教へぬ人も多にたれしとて我らん

左法れよしとていふらん

しそむちもたれしとていふらん

ころやよもゆらん

いわちらんゆらん

もいれんゆらん

九番

九持

三位中将實家卿

じつらもつらく廣田の林ありとも梅の心ちらん

石

登之蓮

いふもよもゆらん

たうらく廣田なりとていふらん

のうゆよもゆらん

宣將愁字作秋心とていふらん

花よもあふよもゆらん

とていふらん

源を其羽を羽又とていふらん

むしらの姿よゆらん

表よもあふよもゆらん

安叶風神よりとていふらん

十番

續和

此

ふりしやのしゆりた又うへひ祚のめくもそつや
りつろあめまのしよの表よりんしゆもては一番の勝負の
祚魚のゆもそくしよの不加愚判多

十五番

左持

賀茂政平

なうしよく世よわつこく津のまれり田の森乃るよとせん

右

憲盛

かきぬもいよちうちうちのれまはにわてあしをば
たすすく洞にひかしくもくゆりちよのそとをえ
やうつらそいしよくゆりねとあやんちん
えくゆへ右あしんちうちうちのそとをえ
らねと奇合の心ゆりねとゆりねとゆりねと
ゆりねとゆりねとゆりねとゆりねと

十六番

左勝

賀茂重保

いはまの橋本乃むよ身とあしとれまどゆりうん

右

通清

きよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
きよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
きよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
きよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
きよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ
きよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ

十七番

左持

資隆

きよきよきよきよきよきよきよきよきよきよ

右

右兵衛統経正

すゝの幽玄のそまのゆき位りもことうゆき
おもひもあまのちかたのちかたのちかた

二十九番

花勝

中納言君

みよのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた

石

索覺

花のわが老まりの年とあまのちかたのちかたのちかた
片や水底の尻りのちかたのちかたのちかたのちかた
神感さるるちかたのちかたのちかたのちかたのちかた
やあまのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた
ちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた
ちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた

あまのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた
ちかたのちかたのちかたのちかたのちかたのちかた

兼安二年十二月十七日加判畢
如令馳筆不能沉思後見雖有
恥愆怨神慮也

公通 勝二持 負一

實定 勝二持 負二

小侍從 勝一持 負一

實國 勝二持 負一

觀蓮 勝一持 負一

三河内侍 勝一持 負一

俊惠 勝一持 負一

成範 勝一持 負一

實家 勝三持 負一

太輔 勝一持 負二

重家 勝一持 負二

賴政 勝一持 負一

實房 勝一持 負一

師光 勝一持 負二

實經 勝一持 負一

實守 勝二持 負一

俊成 勝一持 負一

盛方 勝一持 負一

登蓮 勝三持 負一

經盛 勝二持 負一

實宗 勝一持 負二

賴實 勝二持 負一

脩範 勝一持 負一

顯廣王 勝一持 負二

政平 勝一持 負一

重保 勝一持 負一

資隆 勝三持 負一

廣季 勝一持 負一

親重 勝三持 負一

季廣 勝一持 負一

隆信 勝一持 負二

季經 勝一持 負二

寂念 勝一持 負一

道因 勝二持 負一

憲盛 勝一持 負二

通清 勝一持 負一

經正 勝一持 負一

廣言 勝一持 負一

朝宗 勝三持 負一

伊經 勝一持 負一

勝負持

顯經 勝三持

仲經 勝一持

李定 勝一持

邦輔 勝一持

懷經 勝一持

懷德 勝一持

智經 勝一持

姓阿 勝三持

中納言君 勝二持

隆親 勝三持

依 勝一持

廣盛 勝一持

安心 勝一持

僧 祐盛 勝一持

憲經 勝一持

經尹 勝一持

淨緣 勝三持

索覺 勝一持

三井寺新羅社哥合 兼安三年八月十五夜

題

遙見山花

古鄉子規

湖上月

野宿雪

淡合友意

作者

左

中納言君 法性寺石蓋 法橋房

阿闍梨蓮忠 姜濃 聖護院住

阿闍梨范益 丹後 為盛息

右

小輔君 三井寺南院執行房住 教智律師房

阿闍梨泰覺 春尋法橋息

阿闍梨親之方 大住伊之息

五番

右

賢居美人云

まゆらうららぬ〜

右

歌宗 澄信云

たらしまじりあはれもいそよそいでいそふ人あふ山さうりや
左の春風且零落峯雲不懸きとつるふこと
あふ事あふれとあひとあふ〜 右のむ白無比類をい
於混といふ心さあ〜 左のむ白無比類をい
あふとやあ〜 右のむ白無比類をい
又あふ〜

六番

右

乃後 孝隆云

み〜 歌宗 澄信云

右

長照 光朝云

あつ〜 乃後 孝隆云
左の春風乃白の初文字
とよよみ〜 のこと
同の舊さ〜 合もさ〜
右の初文字とあ〜 して
これとあつ〜 とさ〜 入依の
さ〜 乃のあ〜 ねと又〜 何〜 乃の
こと〜 何〜 何〜 何〜 何〜 何〜

七番

右

信親 師公

し〜 乃のあ〜 ねと又〜 何〜 乃の

右

知子 澄信云

かゝるはたはたのまゝに
たはたの優よとて言ふも
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに

三十番

左

道禪

まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに

右

長照

まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに

まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに

三十一番

左

行親

まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに

右

知母

まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに
まゝにたはたのまゝに

三十二番

左

言敏

唐の... (Faint vertical text)

右

右

おの... (Faint vertical text)

三十三番 談合友意

右

申納言公

ち... (Faint vertical text)

右

少輔公

あ... (Faint vertical text)

三十四番

右

右

あ... (Faint vertical text)

右

右

あ... (Faint vertical text)

右... (Faint vertical text)

三十五番

右

右

あ... (Faint vertical text)

右

右

あ... (Faint vertical text)

及衆徒之高聞已可為今生名譽後世資糧也但
愚判之趣定不可衆心惟欲此條聊畏申之由可
然之樣可令披露給候也頓首敬白

十一月五日

皇后宮大夫俊成

謹上

石藏法橋御房

勝負

左

中納言君

勝二員一持二

少輔公

勝一員二持二

蓮忠

員一持二

泰光

勝一員一持二

證兼

勝一員二持二

親實

勝二員一持二

明智

員一持二

智暹

勝一員一持二

賢辰

勝一員一持三

觀宗

勝一員一持三

道禪

勝一員二持二

長照

勝二員一持二

信親

勝三員一持一

智經

勝一員三持一

良敏

勝三員一持一

忠勝

勝一員三持一

新羅社

十七終

